

決算説明会
平成29年12月期
第2四半期

株式会社カイオム・バイオサイエンス

2017年8月15日



Copyright © 2017 Chiome Bioscience Inc. All Rights Reserved.



証券コード : 4583

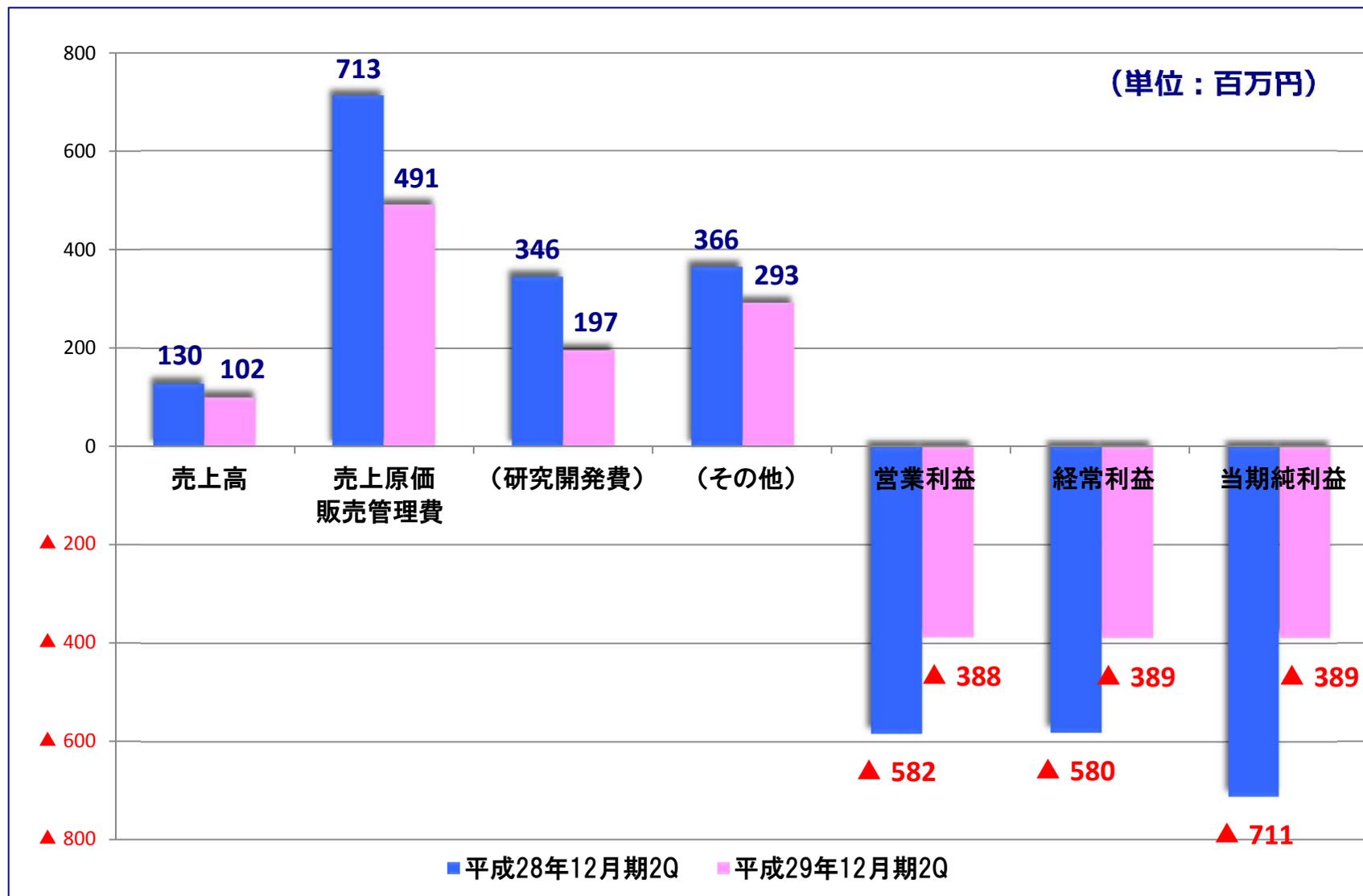
決算補足資料アジェンダ



- ◆平成29年12月期業績
- ◆経営概況
- ◆その他



業績：損益の状況



決算補足資料アジェンダ



- ◆平成29年12月期業績
- ◆経営概況
- ◆その他



経営概況①

➤ 【事業開発の状況】 -創薬事業-

■ オプションライセンス契約について

ADC Therapeutics社(以下ADCT社)とのオプションライセンス契約により、ADC(抗体薬物複合体)における主に薬効評価が終了し、以下の通知を受領(2017年6月26日)

	オプション権	今後の予定
LIV-1205	行使	・ ADCT社において臨床開発に向けた作業が進行中 ・ ライセンス契約締結は作業中
LIV-2008b	不行使	引き続き開発と導出作業を継続

LIV-1205オプション権行使について



- ◆ ライセンス契約によりADC領域における全世界の、独占的な、サブライセンス権付の開発・製造・販売の権利を付与する。

ADCT社にてLIV-1205のADC領域での研究開発を推進

ADC Therapeutics社（詳細は<http://www.adctherapeutics.com/>）

- ◆ 本社はスイス。がん領域でのADC抗体の開発に特化。臨床開発実績あり
- ◆ 独自のADC技術を用いて3つのがん治療薬の臨床試験を実施中、1つをMedImmune社に導出

※ADC（抗体薬物複合体）とは抗体と薬物を結合させ、抗体の抗原特異性を利用して強力な抗腫瘍効果を有する薬物を疾患部位に選択的に行き届かせることを目指した医薬品



■ LIV-1205(ヒト化抗DLK-1抗体)通常抗体

- 米国国立がん研究所（NCI）の小児がん対象の非臨床評価プログラム（PPTP：Pediatric Preclinical Testing Program）で現在評価実施中
- 自社での臨床開発の準備に向けた体制構築中

➤ 【事業開発の状況】 -創薬支援事業-

- 創薬支援事業の重要な収益源として、中外製薬グループとの委託研究取引基本契約に基づく取引を継続
- 田辺三菱製薬グループとADLib[®]システムを用いた抗体作製実施
- 他の製薬企業との抗体作製プロジェクトも実施

経営概況②

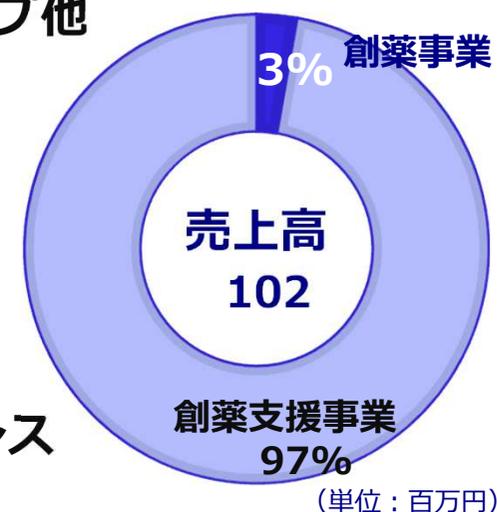


➤ 【売上高の状況】 -創薬事業-

- ADCT社とのライセンス契約に伴う契約一時金の売上計上は3Q以降を予定

➤ 【売上高の状況】 -創薬支援事業-

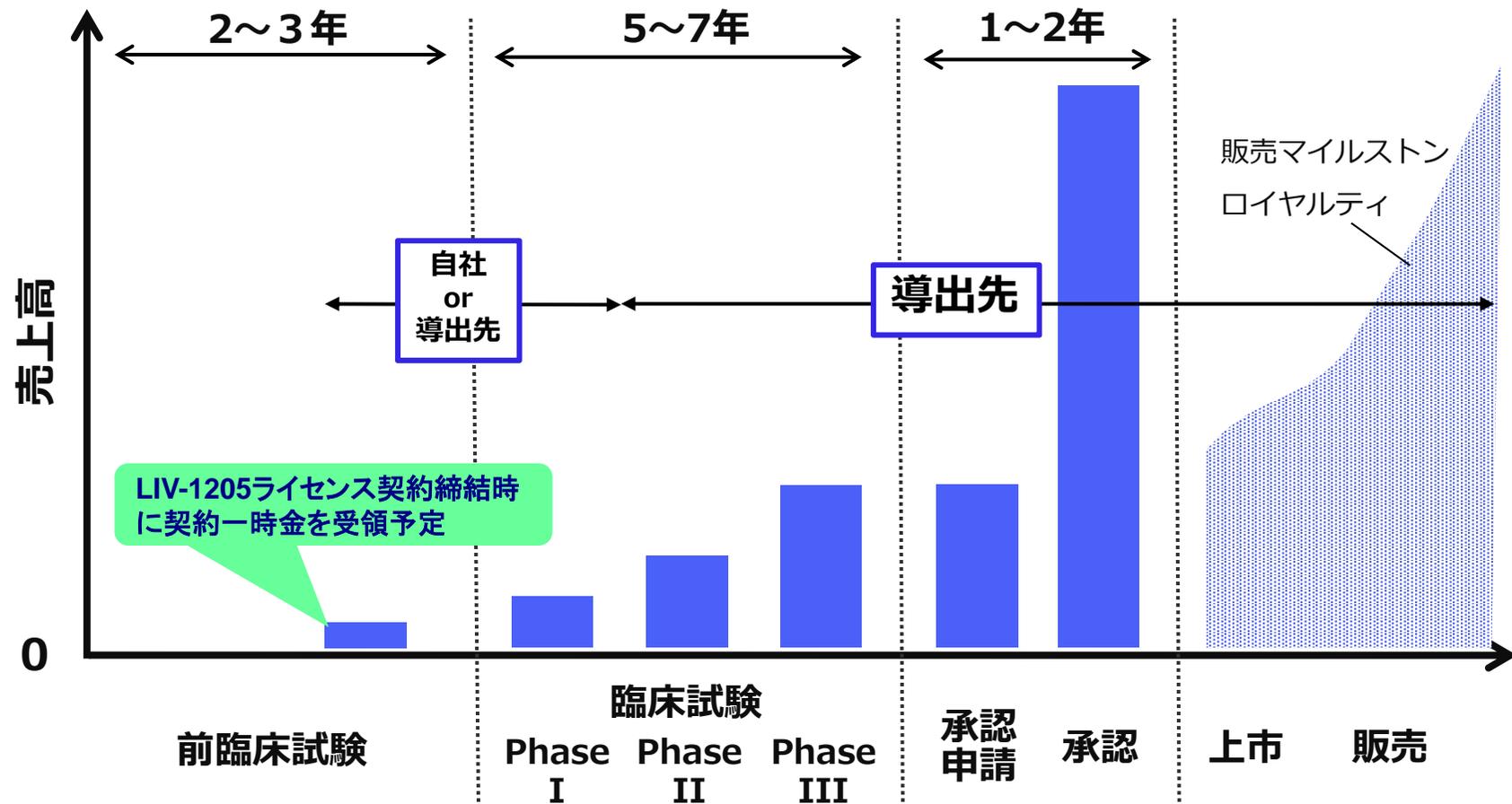
- 当期第2Q累計期間における創薬支援事業の売上高は99百万円
- 売上構成は中外製薬グループ、田辺三菱製薬グループ他



➤ 【研究開発の状況】

- ADLib®システムの技術改良、およびヒトADLib®システムを用いた抗体作製プロジェクトを実施
- 複数の創薬パイプラインの探索プロジェクトを実施

パイプラインの状況と収益モデル



LIV-1205

LIV-1205 ADC

LIV-2008

LIV-2008b ADC

BMAA

パイプラインの開発状況



プロジェクト	標的分子	疾患領域	基礎・探索研究	前臨床試験	臨床試験	提携先
LIV-1205 ADC	DLK-1	がん	開発の主導がADCT社へ			 ADCT社
LIV-1205	DLK-1	がん	自社臨床開発に向け体制構築中			導出活動中
LIV-2008b ADC	TROP-2	がん				導出活動中
LIV-2008	TROP-2	がん				導出活動中
BMAA	SEMA3A	非開示				導出活動中
新規PJ	非開示					

LIV-1205・LIV-2008/2008bのプロファイル



	LIV-1205 (ヒト化抗DLK-1モノクローナル抗体)	LIV-2008/2008b (ヒト化抗TROP-2モノクローナル抗体)
ターゲット	DLK-1	TROP-2
高発現がん種 (開発ターゲット)	肝臓がん、小細胞肺がん、神経芽細胞腫等	乳がん (TNBC※1)、肺がん、大腸がん等
ターゲットの新規性	新規	既知
競合	なし	あり (ADC; IMMU-132, Immunomedics)
知財	米 (日、欧、Others出願済)	日、米 (欧、Others出願済)
ヒトでの有効性	未知	上記IMMU-132が臨床での有効性
期待	標準療法に不応答のがんを標的としたファースト・イン・クラスの治療用抗体候補	乳がん、肺がん等をターゲットとしたベスト・イン・クラスの治療用抗体候補
Naked抗体	動物モデルでの単独投与試験で、顕著な腫瘍増殖阻害効果を示す	動物モデルでの単独投与試験で、複数のがん種において、顕著な腫瘍増殖阻害効果を示す
その他	インターナリゼーション※2活性あり	インターナリゼーション※2活性あり(LIV-2008b)

※1 TNBC : Triple-negative breast cancer

※2 インターナリゼーション : 抗体が抗原と結合後、細胞内に取り込まれる現象

経営概況③



➤ 【その他】

- ✓ 第13回新株予約権（第三者割当）の行使状況。

平成29年6月末までの資金調達額：約17億円

6月末時点における未行使個数：1,347個（総割当個数5,567個）

今後の企業価値向上に資する投資に注力。

具体的な用途	金額（百万円）	支出予定時期
臨床試験準備および初期臨床試験の実施	1,300	2017年1月～2019年12月
新規パイプラインの創製および導入	300	2016年12月～2018年12月
高度な技術やシーズ [®] を有する企業への出資、M&A	1,294	2016年10月～2018年12月

- ✓ 効率的な執務スペース確保と固定費削減を目的とし新宿オフィスの縮小
それに伴い固定資産売却損益を特別損益として計上

決算補足資料アジェンダ



- ◆平成29年12月期業績
- ◆経営概況
- ◆その他



経営の客観性・透明性の担保のために



経営諮問委員会の設置

【目的】

- ① 当社の経営に対する客観的評価に基づく助言の提供
- ② 必要に応じ過去の経営計画や経営判断の検証・評価も行う

【委員会メンバー】

委員長	福崎真也氏（弁護士）
委員	鳥羽史郎氏（公認会計士）
委員	吉野潤氏（弁理士）



【活動状況】

5月24日～8月8日 委員会・検討会開催
当社の経営・適時開示に関わる検証業務

**経営諮問委員会の評価に基づく助言を活用し
新たなビジョンや事業計画を再構築中**

倫理性と透明性

Ethics & Transparency

進化と創造

Evolution & Creation

交差と交流

Chiasma & Global Exchange

常に人命を最優先に考え、健全で誰からも愛される企業に！
個人と企業のたゆまぬ成長により、常に未来を創造する企業に！
地域と領域を超えた可能性を追求し続ける企業に！



本資料の取り扱いについて



- 本資料は、株式会社カイオム・バイオサイエンス（以下、当社という）を御理解頂くために作成されたものであり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。
- 本資料に掲載されている将来の見通し、その他今後の予測・戦略などに関する情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲で判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は様々な要因の変化等により、本資料記載の見通しとは異なる結果を生じる可能性があります。
- 将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさを内在しております。
- 今後、新たな情報や将来の出来事等が発生した場合でも、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新、修正を行う義務を負うものではありません。